



様式第4号（第6条関係）

平成29年11月29日

富士見市議会議長 尾崎 孝好 様

会 派 名 公明党
代 表 津波 信子

行政視察・研修（政務活動）報告書

下記のとおり、行政視察・研修（政務活動）を実施しましたので、報告いたします。

記

- 1 期 間 平成29年11月15日～29年11月16日（1泊2日）
- 2 参加者名 津波信子 加藤清 深瀬優子
- 3 場所（行政視察地・研修場所）
 - 1日目＝高崎市役所
 - 2日目＝長岡市生ごみバイオガス発電センター
長岡市役所（アオーレ長岡）
- 4 調査・研修概要
 - 1日目＝高崎市・空き家緊急総合対策について
 - 2日目＝長岡市・生ごみバイオガス化事業について
長岡市・シティホールプラザ「アオーレ長岡」について
- 5 感想及びまとめ

【高崎市・空き家緊急総合対策について】

高崎市では、空き家対策において条例を作らずに「空き家緊急総合対策」としてスピード感を持ち、取り組んでいる。

高崎市が空き家緊急総合対策事業を開始するに至った経緯は、以下の通りで

ある。

空き家は個人財産であり、所有者が自己責任で適正に管理するものだが、空き家増加を起因とする、社会問題の拡大、多様化を受け、行政としても空き家の減少、空き家問題の解消につながる対策を講ずるべきであると考えた。

市長は、空き家問題は地方都市の重要課題と捉えており、平成24年度から空き家の施策について関係各課を集め検討を始めた。

市長のトップダウンで、対策の必要性を市民に周知し、空き家解消に向けて「老朽化した空き家の除去」と「利用可能空き家の活用」を同時に進める総合的な施策を実施していく必要があるとの判断に至り、平成26年6月から、7つの制度に対して（平成28年度からさらに1つ追加）市独自の取り組みとして、補助金の支給を開始した。

管理・解体・活用の3本柱の制度となっており、空き家のまま管理する場合の建物の清掃や敷地内の除草にかかった費用の一部助成や、老朽化した危険な空き家の解体費の一部助成、また、利用可能な空き家を改修し、高齢者や子育て世代など地域住民が気軽に利用できるサロンとして活用する場合の改修費や家賃の一部助成などを実施している。

財源は、国・県の補助等は受けておらず市単独費で、多くの申請が寄せられている。解体費の助成への申請件数が多いが、大変好評なのが、空き家をサロンとして活用する場合の助成金に反響が大きく、資産の有効活用の面において効果のある施策であると評判も高い。さらに、地域に開かれたサロン事業を開設することで、まちづくりの課題である地域コミュニティの再生にも貢献できると、期待が大きいとのこと。

本市においても、来年度までに調査結果をまとめ、台帳を作成し、管理システムに反映することが計画されており、実行性のある制度を期待することから、先進市の取り組みは大いに参考になった。

【長岡市・生ごみバイオガス化事業について】

長岡市は、上越・北陸新幹線、関越・北陸自動車道の開通などにより、まちづくりが急速に進展するなか、震災復興や市町村合併で生まれた絆や地域の輝きを糧に、長い歴史と美しい自然の中で培われた市民の知恵を結集し、「市民協働」で活力あるまちづくりを進めている。

環境にやさしく、豊かな自然と調和するまちを実現させるために、生ごみからエネルギーを排出する「生ごみバイオガス化事業」を展開、地域資源や地域

エネルギーを活用した新たな地域循環型社会の形成に向けて、果敢に取り組んでいる。

全市民が徹底的に廃棄物の分別収集と3Rに取り組んできた土台があり、ごみの有料化にも早い時期から取り組んでいる。

事業を展開するために必要不可欠な、生ごみの分別収集を開始するにあたっては、市民の理解を得るための出前講座をかなりの回数開催しており、市民協働のまちづくりを進めるとの、職員の意識の高さが、成功の要因の1つと感じた。

生ごみを微生物の働きで発酵・分解し、発生するバイオガスを発電に利用し、また、ガスだけでなく、発酵残さ（残りかす）も民間のセメント工場などの燃料として売却し、生ごみを100%利用、1日65トンの生ごみを処理する「生ごみバイオガス発電センター」を視察し、長岡市の先進的な取り組みに、本市の今後を模索するうえで、参考になるものが大きかった。

発生したバイオガスを発電利用した、発電量は年間410万キロワットで、一般家庭の約1,000世帯分の量とのこと。

事業方式は、平成23年3月からPFI方式を用いている。

事業効果として、燃やすごみの量が約3割減少、年間2,000トンの二酸化炭素を削減、15年間で35億円の費用を削減できるなど、効果をあげている。

また、環境教育の場として、見学の受け入れも行っている。

【長岡市・シティホールプラザ「アオーレ長岡」について】

当施設は平成24年4月にオープン。屋根付き広場のナカドマ、アリーナ、市役所が一体となった全国初の複合施設を視察した。

オープンから5年間で約4万人の視察・見学者が訪れ、来場者は680万人を超える。

市街地大通りに面し24時間開放されている「屋根付き広場」のナカドマは日本建築の「土間」をイメージしたアオーレ長岡の全ての建築物をつなぐ巨大な屋根付き広場で、市民の交流の拠点として様々な市民団体の発表の場やイベント会場とし賑わいをみせている。

また、アリーナは最大5,000人を収容でき、多用途に対応したエンターテインメントスペースでコンサートから各種スポーツ、大規模な展示会から各種講演会まで幅広い用途に応えることができる。

他にも4つの市民交流ホールやシアター等の施設の他、コンビニエンススト

アやファストフード店も入店している。

これらの施設と市役所が一体となった複合施設「アオーレ長岡」は「市民協働・交流の拠点」のコンセプトどおり、市民の憩いの場であると共に行政と市民をつなぎ、長岡市発展の一大拠点である。

本市も市役所周辺には文化施設「キラリ☆ふじみ」や「中央図書館」、「市民総合体育館」などが集まっていると共に、大型商業施設「ららぽーと富士見」も隣接している。今後、立地条件を生かした、本市の「市民協働・交流の拠点」づくりを模索していくうえで、大いに参考になった。